

療養所ニ於ケル支那事變ト結核ニ 關スル統計研究 (其 1)

(昭和 15 年 5 月 7 日受領)

傷痍軍人石川療養所(所長 日置陸奥夫)

森 岡 貫 二 加 納 正
園 部 昌 俊 河 合 益 男

(本文ハ第 18 回結核病學會ニ於テ報告セリ)

緒 論

戰時ニ際シ、外傷ハ暫ラク措キ、兵力ヲ割キ、延イテハ又國民保健上由々シキ問題ヲ惹起スルモノトシテ各種ノ傳染性疾患ノ傳播ヲ來スコトハ今更嗽々スル要ナキモ、取分ケ結核性疾患ガ其最タルモノ、一ニ屬セシ事ハ彼ノ第一次世界大戰ノ際ニ既ニ吾人ニ訓ヘラレシ所ナリキ、乃チ其際ニ於ケル獨逸軍隊現役兵ノ結核ニ罹患セル者ハ兵員 1 萬ニ就キ 53、ソノ死亡ハ 14.4%ニ及ベリト云フ。

腸「チフス」罹患率ガ兵員 1 萬ニ就キ 46、細菌性

赤痢ニ於テ兵員 1 萬ニ對シ 61 ナル數字ト比較シ何等遜色アルモノニ非ザルナリ。今這般ノ支那事變ニ際シ、ソノ本邦ニ於テ如何ナリヤハ軍事ニ屬シ、コレガ全般ヲ知ランコトハ尠クトモ今ソノ時期ニ非ザル可シ。而シテ余等モ亦一就キテハ殆ンド與リ知ル所ナキナリ。唯近時是等ノモノ、何分ノ 1 カヲ職責上取扱ハシメラレタル關係上ソノ調査セル所ニ就キ關係局ノ許可ヲ得テ茲ニ之ヲ報告シ、江湖ノ認識ヲ深メント欲ス。

統計成績

第 1 項 本文ニ採用セル結核ノ分類

結核性疾患ノ分類ニ就テハ在來或ハ免疫學的乃至病理學的方面ヨリ、或ハ臨牀的所見上ヨリ多クノ學者ニ依リテ論議セラレタル所ナリ。本文ニ於テハ主トシテ臨牀的所見ニ依ル分類ニ依ルコトトナシ、而モ必ズ數回ニ涉リテ「レントゲン」所見ヲ參考スル事トナセリ。同ジク臨牀所見ニ依ル分類トモ亦種々アリ。殊ニ肺結核ノ如キハ甚ダ複雑ナリトス。而モ經過久シキニ涉レバ甲型ヨリ乙型ニ移行スルコト往々之有ル可シ。ヨリ詳細ニ記載センコトコソ望マシキニアリト雖モ、例數寡キニ失スレバ意味ヲナサズ。於茲著者等ハ大體次ノ如キ分類ヲ採用スルコト

トナセリ。之ニ就キ著者等ノ「目安」トナシタル所ヲ豫メ記載スルコトヲ以テ重要ナル義務トナス。尙被檢患者ハ罹患後ニ月餘ヲ經、本所ニ收容後モ多クハ數ヶ月ノ觀察下ニアリタルト、ソノ豫後ニ對シテ臨牀家タル著者等ノ經驗ヲ以テ判斷セシ所ヲ以テ補ヒタルコトニ依リ、患者一般ノ病勢ヲ知ル上、ソノ他ノ場合ニ於ケルヨリモ、多少ヨリ多ク信ヲ置クニ足ルト知ル可シ。

1. 肺尖加答兒、本名ノ下ニ偏側肺炎部ニ證明セラレシ瀰蔓性又ハ微細點狀ノ聚合性陰影ヲ爲セルモノ、及ビ孤立性又ハ多在性ノ銳利ナル小石灰化像ヲ呈セルモノヲ之ニ屬セシム。

所謂前者ハ略々 Aschoff, Puhl ノ初發病竈ニ該

當スルモノデアリ、後者ハ Simon ノ轉移竈トモ稱ス可キモノ一シテ、事實ニ於テ良好ナル經過ヲ採リタルモノ、又ハ恐ク然ル可シト目サルモノナリトス。

2. 肺尖浸潤、前述ノ項目一入ル可クシテ尙比較的鮮ナル病竈、若シクハ容易ニ局限終熄ノ傾向ヲ認メザルモノハ假ニ之ヲ區別シテ肺炎浸潤ト呼ベリ。

3. 肺門結核、肺門部淋巴腺腫脹ヲ認ムルカ、肺門部陰影ノ稍々増大シテ所謂 Holzknacht, Raum ヲ認メ得ザルガ如キモノ、サリトテ之ヲ中心トシテ宛モ豫後不良ヲ思ハシムルガ如キ浸潤ノ發展ヲ認メザルモノヲ總括シテ之ニ屬セシム。

4. 氣管枝周圍炎、肺尖部ト肺門ヲ連ヌル索狀像ヲ有セルモノ、謂ヒナリ。之モ亦一側性ニシテ若シ兩側性ノモノハ多クハ之ト共ニ他ノ一側ニ蜂窠性皺襞ヲ認メタリ。而シテ斯ノ如キハ治療ニ傾ケル陳舊ナル増殖性結核ト見做シテ後述肺浸潤ノ部ニ屬セシメタリ。打診聽診上モ變化ナキカ又ハ鋭利ナル氣管枝音ヲ聽取スルヲ常トス。

5. 肺底加答兒、此モノハ多ク結核性ナルベシト解セラレ。本統計デハ 1 例シカ之ニ遭遇セズ。右肺底部ニ於テ小ナル無響性囉音ヲ聽診セルモ、「レントゲン」寫真上同側ノ肺門陰影稍々増大セルヲ認メタル外著變ナシ。一般ニ斯ノ如キモノモ亦豫後佳良ナリ。

6. 肺浸潤、本項ニハ所謂鎖骨下初發病竈ノ凡テノ型ノモノ、Rnndschatten ト稱スル團塊病竈、肺門ヲ中心トセル Porifokal ノ Epi tuberkulose トモ稱セラル、モノ、肺尖ト肺門ヲ連ネタル形式ニ於テ肺尖ニ近ク細葉性結節性結核病變ヲ認メシムルモノ等比較的初期病變ニ屬シ、肺ノ一部ニ局限セル病竈ヲ認メシムルモノ一切總括シテ之ニ入ル。

7. 肺結核、病竈ノ數ヶ所ニ散在セルモノ、肺炎性滲出性變化ヲ呈セルモノ、凡テ浸潤ト云フヨリハ病期ノ進ミタルモノヲ一括シテ之ニ屬セ

シム。Zirrhatisch ナル病變ニ屬セルモノト雖モ亦之ニ包含セシメヌ。而モ全身狀態著シク不良、中毒症狀ヲ思ハシムルモノ多分ニ存スルニ至レバ、

8. 肺癆トシテ假ニ之ヲ爾餘ノモノト區別シテ考察ヲ進メタリ。

9. 肋膜炎、之ニ就テハ敢テ説明ヲ加フル要ナケレドモ、唯一見肋膜炎ノ如クシテ既ニ肺浸潤ヲ明瞭ニ認ムルモノ等ハ無論肺浸潤乃至肺結核ニ屬センメタリ。又肋膜炎ノ甚ダ多クノ場合ニ認メラル、輕度ノ腸間膜淋巴腺炎ノ如キモノハ假令之ヲ認ムルモ肋膜炎トシテ之ヲ取扱ヘリ。之一反シテ肋膜炎トシテノ症狀ハ殆ンド終熄セリト考ヘラル、ニ不拘腸間膜淋巴腺ノ腫脹、壓痛等有ル場合ニ於テハ、

10. 腸間膜淋巴腺炎トシテ之ヲ取扱ヒタリ。

11. 脊椎「カリエス」。

12. 頸腺、腋窩腺腫脹ニ屬セシメラレタルモノハ他ニ胸部、腹部ノ變化ヲ甚シク認メ得ザリシモノニテ、斯ノ如キモノヲ伴ヘバ寧ろ胸部、腹部ノ何レカノ疾患ヲ主體ト見テ之ニ屬セシメヌ。其他結核性腦膜炎、腸結核ノ如キ重要ナル項目ヲ書キ洩セルガ如キモ、是等ノモノ、凡テノ例ハ進行セル肺結核ヲ伴ヒタルモノ一シテ、肺結核若シクハ肺癆ノ中ニ入レシメラレタルコトヲ特ニ付記ス。

更ニ又肺結核ノ所謂血行撒布型ニ關シテ一言セルニ本文ニハ特ニ之ヲ分類セザリキ。所謂新鮮ナル粟粒結核症ノ如キハ寧ろ頗ル稀ニシカ遭遇セザリシモノ、如ク、之療養所ニ收容セラレタル時期ガ該當セザリシ者ナル可シ。斯ノ如キニ關シテハ將來ニ於テ觸ル、機會モ有ル事アルベシ。

第 2 項 成績ノ判定

後述百分率ニ差違ヲ認メタルモノハ凡テソノ差違ガ誤差範圍外ニ在リテ充分ナル意義ヲ付シ得ルヤ否ヤニ就キ逐一檢討スル所アリタリ。乃チ百分率差ガ平均誤差 $\sqrt{m_1^2 + m_2^2}$ (但 $m_1 = \sqrt{a(100-a)}$, $m_2 = \sqrt{b(100-b)}$, a, b ハ夫々 n_1 n_2

ノ對比スベキ率、(n₁, n₂ ハ夫々ノ率ヲ得タル例數)ノ3倍ヲ超エタル時ニ始メテ有意義ナリトセリ。

第 3 項 調査材料

昭和 14 年度ニ於テ本所ニテ取扱ヘル傷痍軍人ノ數 400 名ヲ超エタルモ、ソノ中確實ニ結核性疾患ニ屬セルモノ、及ビ調査ニ違漏ナカリシモノ 397 名ニ就キ調査ヲ進メタリ。上記分類ニ從ヘル各項ノ該當人員次ノ如シ(第 1 表参照)。尙本表ニハ斯ノ如ク稍々詳細ニ之ヲ分類セルモ本報告ニ於ケルガ如キ調査黨ニテハ必ズシモノノ意義ヲ見出スコト容易ニ非ズ、著者等ハ更ニ之ヲ簡易化シ下記各表ニ於ケルガ如ク拾種目トナシテ比較調査ノ歩ヲ進メタリ。乃チ、肺炎加答兒モ肺炎浸潤モ之ヲ一括シテ肺炎浸潤トナシ、肋膜炎ニ關係スルモノハ凡テ肋膜炎トシテ一括シ、腸間膜淋巴腺結核、腹膜炎、肋腹膜炎ハ便宜上之ヲ腹膜炎トシテ記載セリ。尙以下各表ニ於テソノ總數必ズシモ 397 名ニ充タサルモノアルハ調査條項ニ依リテ寧ロ之ヲ除外スルテ適當ト認メタルモノアリタルト、調査洩レアリタルトニ據レリ。

第 1 表

病 名	例數	病 名	例數
肺炎加答兒	3	右側肋膜炎性、癒著性	41
肺炎浸潤	29	左側肋膜炎性、癒著性	34
肺門結核	41	兩側肋膜炎	3
氣管枝周圍炎	6	腸間膜淋巴腺結核	14
肺底部加答兒	1	腹膜炎	8
肺炎浸潤	53	肋腹膜炎	5
肺結核	120	脊椎「カリエス」	8
肺癆	17	頸部淋巴腺結核	3
肋膜炎經過	8	腋窩淋巴腺結核	3

第 4 項 服務地別ニ依ル結核疾患發現様態

被檢羅患者ガ支那ニ於テ戰地勤務ニ服セルト内地ニ止マリタルトニ依リテ結核性疾患ガ如何ニ異リタル發現様態ヲ採レルカヲ見シガ爲ニ第 2 表ヲ作製セリ。

本表ニ於テ甚ダ明瞭ナル事實ハ戰地患者ニアリテ肺結核症ノ進行セルモノ著シク多キコト之ナリ。乃チ戰地患者ノ肺結核症ニ屬スルモノ 43.8%ニ比シ、内地患者ノ 22.5%ハ前者ノ半數ニ過ギズ。本例數ヲ基礎トシテ按ズルニソノ差違ハ充分ニ誤差圏外ニ存ス。内地患者ノ肺門結核トモ稱ス可キモノ、戰地患者ノ幾層倍カ多キハ前記戰地患者ニ於テ肺結核ノ著シク進展セルト正ニ對蹠的關係ヲ示スモノニシテ、勤務、還境ノ如何ガ如何ニ多ク結核ヲ重カラシメタルカヲ明瞭ニ物語ルモノトナス。

第 2 表 服務地別ニ依ル分類表

病 名	戰 地		内 地	
	例數	百分率	例數	百分率
肺炎浸潤	15	7.7	16	8.8
肺門結核	8	4.1	32	17.6
氣管枝周圍炎	3	1.5	3	1.6
肺底部加答兒	0		1	
肺炎浸潤	22	11.3	28	15.4
肺結核	85	43.8	41	22.5
肋膜炎	40	20.6	41	22.5
腹膜炎	13	6.7	14	7.7
脊椎「カリエス」	4	2.1	4	2.2
頸部 腋窩	4	2.1	2	
淋巴腺結核				
合 計	194	100	182	100

第 5 項 兵役別ニ依ル結核疾患發現様態

第 3 表ハ兵役別ニ依リテ如何ニ結核ノ進展度ヲ異ニスルヤヲ示セリ。乃チ後備役ニ於テ肺結核症ニ屬セシム可キモノ甚ダ多ク、之ト反對ニ或ハ肺門結核、或ハ肋膜炎ト云フ一止マレルモノ現役、豫備役者ニ比シテ甚ダ寡キヲ知ル。然ルニ茲ニ留意ス可キ 1 項アリ。夫ハ收容セラレタル豫備役者ノ大部分ガ戰地ニ於テ活躍セルモノナリシコトニシテ、此處ニ表ハレタル百分率ノ相違ハ或ハ勤務地ノ如何ニノミ獨リカ、レルヤモ測リ難キナリ。茲ニ於テ更メテ各兵役者ニ於テ更ニ勤務地ヲ考慮スルノ必要ヲ生ジ、第 4 表ヲ作製セリ。本表ニ依ル時ハ前記ノ考慮ヲナスモ尙後備役者

第3表 兵役別ニ依ル分類表

病名	兵役別		現役		豫備役		後備役	
	例數	百分率	例數	百分率	例數	百分率	例數	百分率
肺尖浸潤	15	8.3	10	8.1	4	7.5	2	6.5
肺門結核	20	11.1	16	13.0	4	7.5	1	3.2
氣管枝周圍炎	2	1.1	2	1.6	2	3.8	0	
肺底部加答兒	0		1		0		0	
肺浸潤	24	13.3	19	15.4	5	9.4	2	6.5
肺結核	67	37.2	29	23.6	17	32.0	20	64.5
肋膜炎	33	18.3	32	26.0	14	26.4	5	16.1
腹膜炎	12	6.7	9	7.3	5	9.4	1	3.2
脊椎「カリエス」	4	2.2	2	1.6	2	3.8	0	
頸部 腋窩} 淋巴腺結核	3	1.7	3	2.4	0		0	
合計	180	100	123	100	53	100	31	100

第4表 兵役及ビ服務地別分類表

病名	兵役		現役		豫備役		後備役			
	補充兵役		現役		豫備役		後備役			
	内地	戦地	内地	戦地	内地	戦地	内地	戦地		
肺尖浸潤	9	6	7	3		4		2	7.1	
肺門結核	16	4	15	1	1	3		1	3.6	
氣管枝周圍炎	1	1	2			2				
肺底部加答兒			1							
肺浸潤	12	11	11	8		5		1	1	
肺結核	27	40	12	14	1	14		19	67.7	
肋膜炎	16	17	23	7	2	11		1	4	
腹膜炎	7	5	7	2		6		1		
脊椎「カリエス」	3	1	1	1		1				
頸部 腋窩} 淋巴腺炎	1	2	1	2						
計	92	87	100	80	100	46	100	2	28	100

ハ斷然トシテ重症結核ヲ多ク出セルコト明カニシテ、コハ寧ロ年齢的體質的要約ニ基クモノト云ハズンバ非ズ。ソノ然ル所以ハ第6項ニテ之ヲ示ス。

第6項 年齢別ニ依ル結核疾患發現様態

次ニ年齢的ニ之ヲ取扱ヘルモノヲ第5表トス。本表ニヨリテ按ズルニ、例ヘバ肺結核ノ項ニ於テ21歳—25歳ノモノ、29.7%ト、31歳—40歳ノモノニ於ケル57.1%トノ差違ハ明カニ誤差ノ範圍ヲ脱セリ。年齢ノ進メルモノ程急激ニ肺

結核症ノ重症化セルハ恐ラク事實ナルベシ。

又肋膜炎ニ於テ31歳—40歳ノモノ11.9%ハ26歳—30歳ノ35.2%ニ比シ、確實ニ低數ナリ。又肺門結核ニ於ケル31歳—40歳ノ2.4%ハ21歳—25歳ノ11.7%ニ比シ甚シク低ク、例數サヘ今少シク多カリセバ統計學的トモ充分ナル意義ヲ見出シ得ベシト思考セラル。

年齢別ニ依ルスル差違果シテ認メラル、トセバ恐ラク次ノ事由ノ何レカニ依ル可シ。乃チ本來年齢若シクハ體質的ニ結核ニ關スル抵抗性異リ

第 5 表 年齢別ニ依ル分類表

病名	18歳→20歳		21歳→25歳		26歳→30歳		31歳→40歳	
	例数	百分率	例数	百分率	例数	百分率	例数	百分率
肺尖浸潤	0		22	9.5	7	6.1	3	7.1
肺門結核	1		27	11.7	12	10.4	1	2.4
氣管枝周圍炎	0		4		2		0	
肺底部加答兒	0		1		0		0	
肺浸潤	0		36	15.5	12	10.4	5	11.9
肺結核	3		67	28.9	43	37.4	24	57.1
肋膜炎	4	50	48	23.5	29	35.2	5	11.9
腹膜炎	0		18	7.7	7	6.1	2	
脊椎「カリエス」	0		5		3		0	
頸部 腋窩} 淋巴腺結核	0		4		0		2	
合計	8	100	232	100	115	100	42	100

タルカ、乃至免疫體質的ニ結核ガ個體ヲ侵襲セル場合 Schubweise ニスル經過ヲ採ル可ク餘儀ナクサル、コトヲ示スモノナリ。一般ニ臨牀上ノ從來ノ常識乃至經驗ニ依リ年齢進ンデ顯著ナル罹病様態ヲ呈スルモノ寧ロ寡キノ事實ニ即スレバ寧ロ後者ノ眞ナルヲ思ハシメル。

第 7 項 兵種別ニ依ル結核疾患發現様態
次ニ兵種別ニヨリ結核疾患ノ發現様態ヲ第 6 表一ヨリテ窺ハントセリ。
軍ニ於テハ筋骨發達ノ度其他ニヨリテ豫メ兵種

ノ別ヲ定メ勤務セシム。乃チ本表ニ於テ何等カノ差違ヲ見出シ得レバ、或ハ體質的要約ニ依ル影響ヲ知り得可ケン歟。

乃チ表ニ就キテ按ズルニ、之ヲ詳細ニ檢スレバ各兵種ニ於テ種々ノ特徴ヲ見出シ得ルガ如キモ、何レモ例數不充分ニシテ、百分率ノ差違ハ誤差ノ範圍ヲ脱スルコト能ハズ、之ヲ將來ノ研究ニ委ネズンバアラザルナリ。唯強ヒテ著シキ特徴ヲ求ムレバ、砲兵ニ於テ肺門結核型トモ稱ス可キモノ比較的多ク、肋膜炎患者寡キコトナ

第 6 表 兵種別ニ依ル分類表

病名	歩兵		輜重兵		砲兵		衛生兵		騎兵	
	例数	百分率	例数	百分率	例数	百分率	例数	百分率	例数	百分率
肺尖浸潤	20	10.9	3	3.0	3	7.0			2	11.8
肺門結核	20	10.9	6	6.0	11	25.5	1	4.8	2	11.8
氣管枝周圍炎	3		1		1		1			
肺底部加答兒			1							
肺浸潤	26	14.1	11	11.0	7	16.3	2	9.5	1	5.9
肺結核	62	33.7	39	39.0	13	30.2	5	23.8	4	23.5
肋膜炎	38	20.7	28	28.0	4	9.3	8	38.1	5	29.4
腹膜炎	9	4.9	9	9.0	2		2	9.5	3	17.7
脊椎「カリエス」	3		1		1		2	9.5		
頸部 腋窩} 淋巴腺結核	3		1		1					
合計	184	100	100	100	43	100	21	100	17	100

リ。他日例數ノ多キヲ得テ明カニ爲シ得可シ。

第 8 項 職業別ニヨル結核疾患發現様態

收容傷痍軍人ハ將校僅カニ兩 3 名、下士官若干名、他ハ概シ兵士ニテ而モ應召者ニシテ平素各

第 7 表 職業別ニ依ル分類表

病名	農 業		商 店 員		官公吏、學生、 會社員、僧侶		工員、職人		筋肉無職 労働者	
	例數	百分率	例數	百分率	例數	百分率	例數	百分率	例數	例 數
肺 尖 浸 潤	5	5.6	7	7.2	5	7.3	15	13.5		
肺 門 結 核	9	10.1	9	9.2	10	12.5	10	7.7		3
氣管枝周圍炎			2		4		0			
肺底部加答兒			0		0		1			2
肺 浸 潤	11	12.3	11	11.2	11	15.3	17	14.5	1	8
肺 結 核	32	36.0	37	37.8	21	30.4	36	31.6	3	1
肋 膜 炎	20	22.5	24	24.5	13	18.8	27	23.4	1	2
腹 膜 炎	6	6.7	4		7	9.7	8	6.8		
脊椎「カリエス」	5	5.6	2		0		1			
頸部 腋窩} 淋巴腺結核	1		2		1		2			
合 計	89	100	98	100	72	100	117	100	5	16

種各様ノ職業ニ從事ス。今調査ニ依ツテ逐一之ヲ明カニナセリト雖モ、各職業別ニスレバ該當人員甚ダ少数ニシテ比較スルモ意義甚ダ尠シ。茲ニハ假ニ之ヲ表掲ノ如キ6種別トナシテ考察ヲ試ミタルモ、ソノ間何等著シキ差違ヲ見出シ能ハズ、召集前ノ職業ハ罹患セル結核進展ノ度ニ甚ダシキ影響ヲ及ボサザル事ヲ知り得タリ。勿論常識トシテモ個々ノ職業ニトリテ罹患傾向ノ甚ダ濃密ナル物モ大イニ存ス可ク、罹病率デハ種々特徴アル可シト雖モ、罹患ノ様態ニハ著變ナキモノト思考ス。

第 9 項 出身地別ニ依ル結核疾患發現様態

被檢傷痍軍人ハ概ネ石川、富山、福井、三縣下出身ニ屬ス。石川最モ多ク、富山之ニ次ギ、福井最モ尠シ。詳細ナル調査表ニヨリテ縣別ニ發病様態ノ差違ヲ按ズルモ著變ナシ。市、町、村別ニ纏メ得タルモノヲ第 8 表トナス。

村出身者ニハ肺尖浸潤比較的寡ク、却テ肺浸潤ノ稍々多キ傾向ヲ認ムルガ如ク、著シク進展セル肺結核ノ項ニ入ルモノハ出身地ヲ不問、同率ヲ示ス。

由來農村ニ於テハ都市ニ於ケルヨリモ結核性疾患浸襲ノ度比較的寡キハマントー氏反應陽性率ノ差違アルコトニヨリテ之ヲ示サル。本地方ニ於テモ此状態ニ於テ他ト異ルモノアルニ非ズ。

斯ノ如キ事實何等カノ關聯ヲ有スルモノナリヤ否ヤハ早急ニ斷ジ得ル所ニ非レドモ、何カナシマントー氏反應陽性轉化時ニスル身體ノ勞役加ハル場合特ニ經過ヲ促進セシメ、延イテハ恐ラク顯著ナル發病ヲ醸シ出スモノ、如ク覺エラル。又若シ然リトセバ新タナル感染ガ軍隊ニ入りテモ兵營ノ内又ハ外ニテ引續キ多キカ寡キカ行ハレ居ル事實ヲ裏書スルモノナル可シ。

第 8 表 出身地別ニ依ル分類表

病名	市		町		村	
	例數	百分率	例數	百分率	例數	百分率
肺 尖 浸 潤	13	15.7	9	10.8	10	4.3
肺 門 結 核	10	12.0	8	9.6	23	9.9
氣管枝周圍炎	2	2.4	0		4	1.7
肺底部加答兒	0		0		1	0.4
肺 浸 潤	9	10.8	6	7.2	38	16.5
肺 結 核	26	31.4	32	38.6	79	34.2
肋 膜 炎	14	16.9	20	24.1	52	22.4
腹 膜 炎	5	6.0	4	4.8	18	7.7
脊椎「カリエス」	1	1.2	2	2.4	5	2.2
頸部 腋窩} 淋巴腺結核	3	3.6	2	2.4	1	0.4
合 計	83	100	83	100	231	100

第 10 項 家族歴及既往歴ニ於ケル結核性疾患有無ノ結核發現様態ニ及ボス影響

本人ノ家族ニ結核疾患アリシヤ否ヤニ依リテ

第 9 表 家族歴及既往歴別分類表

病名	家族歴		既往歴					
	既往歴	家 族 歴		有		無		
		有	無	有	無	有	無	
	例 數	百分率	例 數	百分率	例 數	百分率	例 數	百分率
肺 尖 浸 潤	7	13.2	25	7.3	6	9.2	26	7.8
肺 門 結 核	7	13.2	34	9.9	6	9.2	35	10.5
氣 管 枝 周 圍 炎	1		5	1.4	0		6	1.8
肺 底 部 加 答 兒	0		1		0		1	
肺 浸 潤	5	9.4	48	14.0	12	18.5	11	12.3
肺 結 核	23	43.4	114	33.2	26	40.0	111	33.5
肋 膜 炎	7	13.2	79	23.0	11	16.9	75	21.1
腹 膜 炎	2	3.8	25	7.3	2		25	7.5
脊 椎「カリエス」	1		7	2.0	1		7	2.1
頸 部 淋 巴 腺 炎	0		6	1.7	1		5	1.5
合 計	53	100	344	100	65	100	332	100

之ヲ比較セルモノヲ第 9 表トナス。同表一ハ又本人ガ嘗テ結核性疾患ニ罹患セリヤ否ヤニヨル比較成績ヲモ合セ掲ゲタリ。

兩者共ニ所謂漿液膜結核ニ於テ相當著シキ差違アルガ如キモ、何分例數不足セル結果、將シテ誤差範圍ヲ脱セルヤ否ヤ疑ハシキモノアリ、後來ノ研究ニ俟ツ可キモノトナス。

本表ニ於テ尙注目ス可キ事存ス。夫ハ患者ノ選擇ガ任意ニ行ハレタルニ不拘、家族ニ嘗テ結核性疾患ニ付レタモノヲ出サザリシ者、竝ニ本人ノ既往ニ於テ結核性疾患ヲ經過セリト覺エザルモノ甚ダ多數ニ存シタルコトナリ。是ハ徵兵竝ニ召集ニ於テ強健ナル者ノ專ラ合格スル當然ノ結果ナリトハ云ヘ、發病者ガ必ズシモ見掛ニ於テ強健ナリシ者ニ止マラズシテ、全ク斯ノ如キ事ト無關係ニモ發生シテ居ルコトヲ明示セルモノナリ。

但シ既往症ノアリタルモノト、ナカリシモノトノ何レニ於テヨリ多ク發病セルヤハ本所ノ調査ノミニテハ遂ニ知ル能ハザルコトヲ諒トスベシ。

第 11 項 誘因ニ就テ

終リニ被檢者ノ問診ニ依リ、發病ノ直接ノ誘因

トナリタルモノヲ集メ、之ガ百分率ヲ出セルモノヲ第 10 表トナス。

感冒乃至上氣道炎ト稱スルモノ、竝ニ特ニ誘因ヲ擧ゲ得ザリシモノ最モ多ク、甚ダシク疲勞シ居レリト云フモノ之ニ次ギテ多カリシモ、傳染性疾患ニ續發セルモノモ亦可成リニ存セリ。就中「マラリヤ」症ヲ最モ多シトナス。「チフス、ワクチン」注射後摘發セラレタルモノアルガ如キモ注目ヲ惹クモノナリトス。

外傷ニ續發セルモノニ於テハ胸部打撲ヲ最モ多シトスルモ、直接戰傷乃チ胸部貫通銃創ニ依リ或ハ肺浸潤、或ハ結核性肋膜炎ヲ惹起セルモノモ少數ヲ存セリ。是等ノモノト云ヒ、又傳染性疾患ニ續發セルモノト云ヒ、戰地ニ行カザリセバ恐ラク發病モ多分ニセザリシモノナル可キコトヲ最モ率直ニ物語レリ。

然レ共繰返シ之ヲ考察スレバ斯ル特定ノ原因ハ寧ロ寡クシテソノ多クノモノハ過勞、乃至感冒ト云ヘルガ如キ一般的原因ニ依ツテハ既ニ誘發セラレ、又之ガ爲ニ重症トナリタルモノニシテ、如何ニ比較的容易ニ誘發セシメラレ得ベキ結核の素因ヲ既ニ有シ居レルヤヲ思ハシムルコト切ナルモノアリ。

第 10 表 誘因ニ依ル分類表

病 名	原 因	誘因ヲ認メズ					傳染病ト關聯セルモノ					榮 養			外 傷			
		誘因ヲ認メズ	上氣道炎	感冒	過勞	肺炎	チフス	クチン注射	赤痢	急性腸炎	蟲様突起炎	マラリヤ	脚氣	缺食	胸部打撲	胸部戰傷	腹部戰傷	上膊骨骨折
肺尖浸潤		4		3	3	1	1	1						5				
肺門結核		5	1	6	3	1	2		1		2	1		1				
氣管枝周圍炎					2	1												
肺底部加答兒																		
肺浸潤		13	2	9	8				1		2			1			1	1
肺結核		25	9	32	19	1	1	2	3		7	2		6		1		
肋膜炎		13		13	6				1	1		1		7	1			
腹膜炎		3	2	5	3	3			1		1	1		1	1			
脊椎「カリエス」		1		1	2		1				1							
頸部 腋窩	淋巴腺炎	1	1		1							1						
計		65	15	69	47	5	4	5	2	6	1	13	5	1	21	2	1	1
%		二四、六	五、七	二六、二	一七、八							四、九			八、〇			

概 括

兵團ニ於ケル結核性疾患ノ發生ガ新タナル感染ニ依ルヤ、若シクハ一旦經過セル結核再ビ誘發セララルコトニヨルモノナリヤニ關シテハ、今日ノ見解ニ從ヘバー一部ニ於テ新タニ感染スルモノヲ全ク除外シ得ズトナスモ、ソノ概ネノ場合ガ内部ヨリ誘發セラレタルモノニ屬スルモノト解セラル。今此大イナル問題ニ關シテハ如上ノ成績ヨリ支持ヲ與フ可キ有力ナルモノヲ見出スコトハ困難ナレドモ、同ジク集團生活ヲ營メル兵役服務者ガ獨リ戰地服務者ニ於テ甚ダ多ク重症經過ヲ探レルコト、又誘因トモナレルモノノ中ニ傳染性疾患ニ罹患スルニ非レバ、乃至戰傷ヲ受クルニ非レバ恐ラク發病セザリシモノアリタル等ノ事實ハ側面ヨリ結核ノ誘發ト云フニ若干ノ根據ヲ付スルモノト解セザルヲ得ズ。又ソノ何レナルニセヨ戰鬪參加ト云フ激務ガ種々ナル素因ヲ蔽ヒテ結核症ヲ重症タラシメタルコトニ關シテハ一般關係者ノ觀ル所ト一致スル

所ナレ共、本調査ヲ終了シテ新タニ事變關係者ノ結核罹患ニ就キ轉々同情ヲ禁ゼザルモノアルヲ思ハシム。

軍隊ニ於テハ本來強健ナル男子ノ徵兵合格ヲ見ルハ元ヨリナリト雖モ、嘗テ結核性疾患ヲ經過シテ當時健康ナルモノモ存スベシ、又結核感染ノ恐レ濃厚ナル周圍ニ生活セルモノモ幾多存スベシ。然ルニ今上記ニ依リテスル家族歴、既往症ヲ有セザルモノニモ、否却ツテ多ク發病者ヲ出セルコトヲ知レリ。新タナル感染ト云フ事實ガ寡カリセバ、是ハ一見強健ニ見ユルモ我國民層ニ浸透シテ結核感染ガ行ハレ、而モ甚ダ輕ク經過シテ自覺症ヲ有セザル體ノモノ頗ル多ク、斯ノ如キモノガ事變參加ト云フ過激ナル身體的勞務ニ依リ容易ニソノ懷ケルニ爆藥點火セシメラレタルモノナル可シ。而シテ一旦罹病スレバ其處ニ多キカ寡キカ素因のニソノ經過ヲシテ若干特徴アルヲ認メシム。上記事變參加後備役者

ガ他ノ若年者ヨリモ明白ニ多キ率ニ於テ重症ナ肺結核ニ屬シタリシガ如キコト之ナリ。又兵種別ニテモ若干ノ相違ヲ見出シ得ベキガ如シ。今日確症ヲ得ズト雖モ市町村別ニモ亦幾許カノ差違存セリ。

今斯クモ邦人間ニ浸透セル結核症ヲ絶滅センニ隔離ニ依リテ感染源ヲ絶ツベキコト最モ緊要事ニ屬スト云ヒ條、反面發病ヲ容易ナラシメ、重キ經過ヲ助長ス可キ諸因ヲ防遏シテ新ナル感染源ヲ誘起セシメザランコトヲ期セザル可ラ

ズ。斯ル素因トシテ先天的體質上ノ要約タランニハ一朝ニシテ之ヲ改善セシコト容易ニ望ム可クモ非ズ。然レ共若シ後天的ノ體質的的要約、環境、乃至免疫學的原因等ニ起因スルトセバ大イニ社會衛生的ニ、又學術的ニ考慮シテ功ヲ擧ゲ得ベキ理ナリ。此點ニ於テ本調査ニ現レタル所未ダ必ズシモ多クヲ云フ能ハズト雖モ、尙將來之ヲ補足スルト共ニ、之ニ類スル他ノ諸研究ニ依ル結果ト照應スレバ種々示唆多キモノヲ與フルコトアルベシ。

結 尾

1. 本統計ニアタリテハ當療養所ニ入所セル今事變傷痍軍人ニ就キ結核性疾患ノ罹患様態竝ニソノ一ニ誘因調査ヲ行ヘリ。

1. 出征シテ苦難ヲ嘗メタル兵士ノ肺結核症ハ然ラザルモノ一ニ比シ遙カニ多數重症ナルモノニ屬セリ。

1. 誘因トシテ最モ多キハ過勞、感冒ガ擧ゲラレ、又別シテ因ヲ認メ得ザリシモノモ頗ル多シ。傳染病ニ續發セルモノ、戰傷、外傷ガ之ヲ誘發セル場合又之ニ次ギ若干存セリ。

1. 罹患者ノ甚ダ多數ニ於テ家族歴ニモ既往歴

ニモ結核ト關聯アリト認メラルルモノヲ見出スコト能ハザリシハ、新タニ感染セルモノニ非ル限リ(而シテ斯ノ如キハ恐ラク寧ロ比較的少數例ナリシナル可シ)、潛性結核乃至管テ良好ノ經過ヲ探リテ明瞭ナル發病ヲ見ザリシ結核ガ如何ニ容易ニ上記ノ如ク誘發サレタカヲ思ハシム。

1. 疾病ノ經過ニ關スル素因の事項トシテハ、年齢ノ進ミタル出征後備役者ニ於テ病期ノ進行セル者多カリシコトヲ知レリ。兵種別、其他一就テモ若干ノ差違存スルガ如キモ未ダ甚ダシク鮮明ナル能ハズ。